

## 私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会

平成13(2001)年度第3回相互協力委員会議事録

日時:2001年9月26日(水) 午後1時～午後5時

場所:南山大学 名古屋図書館

出席者:長坂功(愛知大学)、足立祐輔(愛知学院大学)、加藤直美(愛知工業大学)、加藤富美(南山大学)、  
中上恵子(愛知みずほ大学)、酒井麻里(金城学院大学)、浜野五鈴(鈴鹿医療科学大学)、小川光男  
(中京大学)、簗島智子(中部大学)、疋田幸世(中部学院大学)、石川宗臣(日本福祉大学)

記録:中上恵子(愛知みずほ大学)

計 11 名

### 【協議事項】

#### (1) 2001年度相互協力情報交換会について

- ・協議に先立ち、前回の議事録について確認を行った。委員長記録は異例ではあるが正式な議事録としてご了承頂いた。
- ・情報交換会発送案内文書一式について確認を行った。なお、今回は各委員の文書校正や意見集約がメール等などでは十分に行われなかったことが反省点である。
- ・加盟館への案内文について。「今回は不参加」の項を次回から設けること、第一希望以外の参加になった場合の通知と、事前の参加者名簿を作成すること、アンケート集計は分科会毎で行なうこと、即答できる事柄については当日回答すること等決定した。
- ・業者(紀伊国屋、丸善)と当日のプレゼンテーションについて打ち合わせを行った。内容としては、商品説明ではなく具体的なわかりやすい話・実際的な問題点等を紹介してもらう方向を確認した。また、なるべく手頃な価格帯に設定頂きたいこと、コンソーシアム契約のメリット等の説明を要望した。参加者が各大学へ持ち帰って検討できるような、具体的な事例の報告等、利用者への利用喚起等、いろいろな可能性を探っていく機会にしたいとの共通理解を得た。ナウカは当会議には欠席したため、長坂委員長が調整を図ることとした。
- ・次回の相互協力委員会は、事前アンケート集計・当日の準備のため11月8日(木)午後1時から愛知大学名古屋図書館で開催することになった。
- ・各分科会の運営については担当分科会に分かれて相談した。なお、各分科会の進捗状況等は次回委員会にて報告される予定。

#### (2) 東海地区ホームページについて

新規に立ち上げられた協議会ホームページについて検討した。

出された意見は次の通りであるが、これらは引き続き開催される情報化委員会との合同委員会での議題とすることとした。

- ・委員会議事録掲載までのタイムラグについて、少し更新が遅いのではないかという指摘があった。情報化委員会のホームページ担当に負担が行き過ぎていれば、更新体制の改善を促すことが必要だろう。
- ・開館日/開館時間一覧の掲載は協会ホームページへのリンクができれば重複することになるので、地区協議会としては不要となる。

#### (3) 2002年度実務担当者研修会について

- ・会場および宿泊施設は南山大学および学園研修会館を紹介された。

インターネット環境についてはレンタル器材でも十分対応できるので、会場としては申し分ないということになった。ただ、2日間の研修であるのと、名古屋市内での開催であるので開催場所を2大学にするとか工夫の余地はある。

- ・開催時期は2001年8月最終週を考えているが、他の図書館関係行事との兼ね合いから 8 月前半も視野に入れて検討することとしたい。
- ・講師講演依頼等のスケジュール調整に注意との意見があった。
- ・研修会に向けてのワーキンググループ立ち上げを12月の委員会で決定する。

#### (4) NACSIS-ILL 参加呼びかけについて

愛知工業大学・加藤直美さん作成の一覧表をもとに、情報交換会などで参加館割合を知らせるなどして参加を呼びかけることになった。

#### (5) OPAC 横断検索について

理事校より相互協力委員会での検討を委員長が依頼された旨、報告があった。

東海地区では CALIS 利用館同士で横断検索が始まっている。又、検索業者も出てきている。しかし物流の段階になると当委員会では対応しきれなくなる。

当委員会としてはデータや資料を収集し、調査を進めることは必要であろうとの点で合意した。そこで、次回委員会でこのテーマに関するワーキンググループを立ち上げて継続的に検討していくこととなった。ただし、当初予定していた相互協力情報交換会での横断検索の講演は、情報化委員会との調整を委員長が行ったので中止することとした。

#### (6) 「レファレンス・コンソーシアムの有効性に関する実証実験」について

愛知工業大学の加藤さんからの報告。この実験のために愛知大学のサーバーが提供され準備が整い10月1日より公開できる予定である。パスワード・ID を掲載した案内文書を近日中に発送する予定である。

### 16:10 より情報化委員会との合同委員会

#### 1) 相互協力委員会より報告

- ・相互協力情報交換会(11/16 金 於:南山大学)について

長坂委員長より下記のとおり説明があった。なお、案内文書は 9 月 21 日に発送済み。事前アンケートについては項目を大幅に減らし、気軽に参加して頂けるように配慮したと報告があった。

テーマ:「オンラインリソースにおけるコンソーシアム価格での提供について」

分科会:「課内研修」、「情報リテラシー」、「ILL とドキュメントデリバリー」

業者プレゼンテーション: 紀伊国屋、丸善、ナウカを予定。

※予定業者の方には委員会にご参加頂き、今回の情報交換会の主旨等について、委員と意見交換を行った。単なる商品説明ではなく、コンソーシアムとは何か、その捉え方について、実務担当者の方にわかりやすく説明頂く機会として設定したいとの報告が相互協力委員長よりあった。

※今回の情報交換会では過去毎回のように扱っていた、「電子メディアと利用」については分科会で扱われないので、このテーマにつき情報化委員会の方で扱って頂きたいと依頼を行った。

#### 2) 情報化委員会より報告

- ・システム・ネットワーク化情報交換会について(12/6 木 於:愛知工業大学)

笹山委員長より下記のとおり説明があった。なお、案内文書は 10 月末に発送予定。

テーマ:「Z39.50 と横断検索 : 異機種間ネットワークの未来」

講演講師 2 名: 慶応大学より 1 名。J-CROSS より 1 名。

分科会: 分科会形式で運営することを予定。

業者プレゼンテーション: 紀伊国屋、丸善、ナウカ、雄松堂、日経 BP を予定

※OPAC の横断検索を扱うので相互協力情報交換会での業者プレゼンテーションが重複しないよう、相互協力委員会と調整済みであることが報告された。なお、相互協力委員会の情報交換会での業者プレゼンテーションの内容を決まり次第、情報化委員長へ伝えることを約束した。

・各加盟館が、東海地区協議会のホームページ上からシステム・ネットワーク化アンケートに回答できるように、サーバ上にシステム設定がなされている旨、笹山委員長より報告があった。

### 3) OPAC 横断検索について

・ブレインテック「J-CROSS」について

J-CROSS への手続きはどのように行うのかという質問があった。実際に参加協力をしている南山大学の回答では、書面上のやり取りなどは特に必要ないとのことであった。但し地区でサーバを立ち上げる等の利用については有償のサービスとなるであろうとのこと。

・相互協力委員会での今後の取組みについて

相互協力委員会では情報交換会ではこのテーマは扱わないが、資料の相互利用等の物流協力等に発展していく可能性がある事項であるので継続的に調査・検討をしていきたいと考えていることが説明された。次回委員会以降、ワーキンググループという形でこのテーマを扱っていく予定である。

### 4) 東海地区協議会ホームページについて

・夏季に立ち上がったのはよいが、更新の頻度が少ないのではないかと相互協力委員会より指摘を行った。更新の体制・タイミング等、原稿を送付しているのであるから、何らかのレスポンスを頂けるよう依頼を行った。

・加盟館情報については掲載予定であるが、加盟館への直リンクで対応するなど、様々なやり方がある。そこで当面館灯の情報を掲載することで対処したいとのこと。

・協議会ホームページのトップページにつき、「お知らせ」等の配信方法等に工夫していただきたいと相互協力委員会から要望を行った。

### 5) その他

・次回合同委員会日程について

次回の合同委員会の会場は愛知大学豊橋図書館であるが、大学入試シーズンでもあるので、日程についてはしばらく保留し、年内に調整をすることとした。

・「レファレンス・コンソーシアムの有効性に関する実証実験について」

実験のコアメンバーである愛知工業大学の加藤直美さんより、下記のとおり報告があった。10/1(月)に URL 上で公開予定であることと、その実験検索・データベースサーバのホームページを実際に見ながらシステム環境の概略が説明された。また東海地区加盟館員への協力依頼も同時に行われた。

以上